

令和 8 年度

修士課程

医科学専攻  
総合生命科学・  
バイオ統計学専攻  
看護学専攻

学生募集要項

[一般選抜試験・社会人特別選抜試験・外国人留学生特別選抜試験]

令和 8 年度本研究科の入学試験は、  
前期を令和 7 年 8 月 1 9 日に、  
後期を令和 8 年 1 月 1 3 日に  
実施します。

<昼夜開講制導入大学院>

久留米大学大学院医学研究科

# 久留米大学大学院医学研究科 修士課程 概要

## 1 修士課程アドミッションポリシー

本研究科修士課程は、あらゆる学部の大学卒業者で、医学・医療に貢献することを目指す多様な学問的背景をもった人材を対象にしている。

広い視野に立った看護学、基礎医学、社会医学、分子生命科学およびバイオ統計学における研究能力及び高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、教養、人間性を備えた人材を養成し輩出することを目的としているので以下のような人材を求めます。

- 1) 本課程修了後に医療現場における高度な専門職業人としての活躍を目指す人。
- 2) 本課程修了後に教育・研究者として更なる研鑽（博士課程への進学）を希望する人。
- 3) 国際社会に貢献する意欲のある人。
- 4) あらゆる学部の卒業者で保健・医療・福祉関連分野の業務経験者を歓迎する。
- 5) 学士以外にも医療・福祉系国家資格有資格者で医療・保健・福祉業務にすでに従事している社会人が働きながらスキルアップを目指し、業務と学修の両立を目指す意欲ある者を歓迎する。

※ アドミッションポリシーとは「受験生に求める能力、適性等についての考え方をまとめた入学者受入方針」のことを指す。

## 久留米大学大学院医学研究科修士課程の教育・研究上の目標

久留米大学大学院は、学校教育法に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展に寄与することを目的とする。

「久留米大学大学院学則第1章 総則 第1条 目的」より

久留米大学大学院医学研究科は、医学・医療の分野で先駆的な学術研究を推進するとともに、幅広い視野、高度の専門性と豊かな教養及び人間性を備え、国際的に活躍し、地域医療に貢献しうる優れた人材を育成することを目的とする。

本研究科修士課程は、各専攻分野の研究能力及び高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、教養、人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

「久留米大学大学院医学研究科規程第1章 医学研究科の目的 第1条」より

## 2 修士課程のコースワークについて

本研究科修士課程における教育・研究の目的に従い、以下のようなコースワークを設定する。

### ○医科学専攻

#### (1) 基礎医学群

基礎医学における先端的な研究を行う研究者を養成する。

#### (2) 社会医学群

疫学研究者、医療行政、機能回復、健康増進、予防医学などに携わる研究者・指導者の育成を目指し、実践的教育を実施する。

### ○総合生命科学・バイオ統計学専攻

#### (1) 総合生命科学群

遺伝情報科学、細胞工学、生体高分子化学などバイオサイエンスの先端的な研究者を育成する。

#### (2) バイオ統計学群

わが国における医学研究および医薬品開発研究などにおいて、バイオ統計学研究者の量的および質的不足は、学術研究のみならず広く産業界における国際競争力の不足に連なるきわめて重要な戦略的課題として、近年認識されている。このような現状に鑑み、本学では、大学院医学研究科修士課程医科学専攻の中に平成 16 年 4 月より「バイオ統計学群」を設けた。国際的標準と見なされている米国に準じたバイオ統計研究体制の確立を図り、臨床試験やゲノム情報の医療利用を目的とするトランスレーショナルリサーチ（探索的医学研究）において「研究計画に参画できる専門知識（プロトコールのデザインなど）」および「データ解析の専門知識」をもち、医学・臨床研究、製薬企業からのニーズに対応できる人材、ならびに健康・保健・福祉等の諸分野において求められている「根拠に基づく医療」に対応できる人材の養成を目的とする。本学群では、医師、コンピュータ技士、看護師等、関連分野の専門家と、優れた倫理性をもって共同作業ができ、高い対話能力をもつような人材に育成することを重要視している。

### ○看護学専攻

#### 修士論文コース

アカデミックコースとして、グローバル社会における学際的視点で、看護実践の研究的検証を通し、柔軟に思考、行動でき、看護の発展に寄与できる高度な看護者、教育・研究者の養成を目指す。

#### (1) 看護教育管理分野

看護教育・看護管理・医療安全・情報を主軸として理論、方法論、哲学、倫理を学び、研究的検証を通し、柔軟に思考、行動でき、看護の発展に寄与できる高度な看護者、教育・研究者を養成する。

## 専門職養成コース

医療、看護に必要な高度な専門知識、技術に基づく的確な判断・実践力、および教育力、調整能力に優れ、研究遂行能力を備えた看護実践者の養成を目指す。

### (1) がん看護分野 高度実践看護師養成

本教育課程では、地域および施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの全過程において、がん看護のスペシャリストとして必要な看護実践力、がん医療チームにおける教育、相談、研究、倫理調整の役割が果たせる人間性豊かな人材を育成し、医療を受ける人々とその家族、医療機関で働く人々、地域の人々への貢献を目指すことを目的としている。専門看護師「がん看護」受験に必要な履修科目を設けた本教育課程は、高度実践看護師教育課程（38単位）として日本看護系大学協議会より正式に認定を受けている。また、本課程では、平成29年度ががんプロフェッショナル養成プランへの共同採択により、大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の育成に寄与すべく平成30年度から緩和ケア地域連携教育論を組み込んだ履修内容とする。

### (2) 感染症看護分野 高度実践看護師養成・国際実践

人類と感染症の戦いは、古来より未来まで続き、健康や生命が脅かされている。感染症治療薬の効きにくい病原体の広がりや、新たな感染症の脅威に対応するため、本教育課程では高度な専門知識を備えた看護師を育成し、地域やグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指し、2つのコースを開設している。

①高度実践看護師養成コースは、感染症患者や易感染症患者及びその家族の健康危機を診断・支援するために必要な知識・理論と技術を修得する。優れた臨床判断能力、感染管理能力、探求力をもち、倫理的配慮に優れたケアができるスペシャリストの育成を目指す。本教育課程は、専門看護師「感染看護」に必要な履修科目を、日本看護系大学協議会の基準に沿って設定しており、高度実践看護師教育課程（38単位）として正式に認定を受けている。

②国際実践コースは、輸入感染症や新興・再興感染症など、国境を越える国際的な感染症の脅威や健康危機において、個人の健康問題から、地域・介護福祉施設・医療施設、あるいはグローバルな地域において、ケアを実践するために必要な知識・理論を学び、技術を修得する。さらに、感染症の脅威に対し、地域やグローバル社会で疫学調査やエビデンスに基づく専門性の高い感染制御について探求できる人材の育成を目指す。

### (3) 老年看護分野 高度実践看護師養成

高齢社会を迎え、高齢者の健康問題に対する医療やサポートシステム等に看護職者の果たす役割は一層期待されるようになってきている。これらの役割遂行にあたり、健康問題に対するケアは言うまでもなく、生活環境・家族関係等の支援に関わる専門知識や実践力を身につけた、スペシャリストの育成を目指す。本教育課程は、専門看護師「老人看護」受験に必要な履修科目を、日本看護系大学協議会の基準に沿って設定しており、高度実践看護師教育課程（38単位）として正式に認定を受けている。

### (4) 小児看護分野 高度実践看護師養成

様々な健康問題を抱え、施設だけではなく学校を含め地域社会で生活する子どもが増加している社会において、看護師の果たす役割が期待されている。本教育課程では、高い倫理観や判断力、高度な知識と熟練した看護技術を用いて、生活する全ての場において子どもや家族のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を目的とした看護ケアを提供するスペシャリストの育成

を目指す。本教育課程は、専門看護師「小児看護」受験に必要な履修科目（38単位）を、日本看護系大学協議会の基準に沿って設定しており、日本看護系大学協議会で正式に認定を受けている。

※専門看護師になるためには、日本看護協会が年1回実施する専門看護師認定審査を受験し、合格する必要がある。これらの試験に合格し登録申請をした方は専門看護師として認定されることとなる。（受験資格要件については、日本看護協会ホームページを参照すること。）

#### （5）助産学分野 助産師資格・上級実践

助産学分野では、妊娠期・分娩期・産褥期・乳幼児期における母子及び家族の健康現象を診断・支援するために必要な理論と技術を学ぶ。また、増加するハイリスク妊産褥婦・乳幼児に周産期医療チームとともに対応できる「助産実践能力」と「管理能力」を持つ高度専門職業人（助産師）の育成を目指す。これらのマタニティケアとともに、女性の生涯にわたる性と生殖に関する健康を支援するウイメンズヘルスケアの探究を図る。さらに、高度なケア・支援の開発・探究に必要な「研究」を通して、生涯を通じた高度専門職業人として自律し、助産学の進化に貢献できる人材の育成を目指し、2つのコースを開設している。

①助産師資格コースは、助産学分野基礎科目をベースに、それに連続して周産期ケアや女性の健康支援について学修を深めることにより、高度な助産実践能力を有する助産師の育成を目指す。本カリキュラムは、厚生労働省の基準に沿って助産師の国家試験及び受胎調節実地指導員の申請に必要な履修科目を配置している。

②上級実践コースは、研究・実践によるスキルアップを行い、より高度な助産実践能力を修得できるよう、リカレント教育を行う。

### 3 授業科目単位の修了要件（P23～33の授業科目及び修了要件を参照）

#### ○医科学専攻

学 群	基礎科目	専門科目	大学院 セミナー シリーズ	準専攻 科目	選択科目
基礎医学群 社会医学群	10単位 以上	12単位以上 (演習4単位、論文指導 演習4単位を含む)	1単位	講義 4単位 以上	自身が履修した 以外の科目から 3単位以上

#### ○総合生命科学・バイオ統計学専攻

学 群	基礎科目	専門応用科目
総合生命科学群	10単位 以上	26単位以上 (必修科目18単位、選択科目8単位を含む)
バイオ統計学群		30単位以上 (必修科目12単位、選択必修科目7単位、 選択科目11単位を含む)

○看護学専攻

修士論文コース

分野	基礎科目	専攻分野	大学院 セミナー シリーズ	特別研究
看護教育管理分野	9 単位 以上	共通科目 8 単位 その他 4 単位以上	1 単位	8 単位

専門職養成コース

分野	共通科目	専攻分野	実習科目
がん看護分野 高度実践看護師養成 (38 単位) ※ 日本看護系大学協議会認定課程	講義 14 単位以上	共通科目 6 単位 専門科目 12 単位	10 単位
感染症看護分野 高度実践看護師養成 (38 単位) ※ 日本看護系大学協議会認定課程	講義 14 単位以上	専門科目 20 単位	10 単位
感染症看護分野国際実践	講義 10 単位以上	専門科目 20 単位	6 単位
老年看護分野 高度実践看護師養成 (38 単位) ※ 日本看護系大学協議会認定課程	講義 14 単位以上	共通科目 10 単位 専門科目 8 単位	10 単位
小児看護分野 高度実践看護師養成 (38 単位) ※ 日本看護系大学協議会認定課程	講義 14 単位以上	専門科目 18 単位	10 単位

分野	基礎科目	助産学分野 基礎科目	助産学分野 専門科目	特別研究
助産学分野 助産師資格	8 単位以上	31 単位	14 単位	8 単位
助産学分野 上級実践	8 単位以上		16 単位	8 単位

(修士課程における学修の基本)

本学大学院医学研究科修士課程医科学専攻に進学後、志望された専攻科目をベースに、いまままで修得した知識・技能をふまえつつ、医学分野の基本知識及び最新の情報を提供する科目を組み合わせる(1年次)。併せて、指導教授から教授された研究指導を通じて修士学位論文を作成するための研究題目の設定、研究計画書の策定、データ収集を行い(1~2年次)、修士学位論文を作成する(2年次)。

## 4 昼夜開講（教育方法の特例適用）による履修及び研究方法

### 1 趣旨・目的

社会人が最新の医学知識・技術を学び取り、高度の医学研究能力、専門的職業人としての能力を身につけその成果を社会に還元したいという声に応え、平成 15 年度から昼夜開講制を導入している。

昼夜開講制とは、夜間や特定の時間又は時期に授業・研究指導の時間を設け、医学及び関連分野の研究者、病院勤務者等の社会人に大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くする制度である。[大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号）第 14 条に定める教育方法の特例を適用]

### 2 授業科目の開設方法

社会人への便宜を図るため、勤務態様等の特性に応じ、授業科目は第 1～5 時限の他に、第 6 時限（18:00～19:30）、第 7 時限（19:40～21:10）の授業を行う。また、土曜日、日曜日、夏期休業期間中にも授業科目を開設する。

※本学医学研究科の学生はすべて昼夜開講制度の適用となる。

## 5 本学の特色ある大学院教育について

特に修士課程において近年取り組みを始めた教育内容について紹介する。

### （1）リサーチナース（CRC）養成ユニットの設置

現在多くの臨床試験が大学病院等で実施されているが、臨床試験に関わっている医療従事者が必ずしも臨床試験に関して十分な知識を持ち理解しているとは言えない状況である。そこで、本学では「リサーチナース（CRC）養成ユニット」を設置し、臨床試験に関して十分な知識を持ちあわせてリサーチナースの育成を図っている。

### （2）先端的・分野特異的研究手法体験ユニットの設置

生理系講座を中心に、一般的実験のほかに各講座で特殊な装置を使用した特有の実験に横断的に参画することにより、基礎的教養を高め、幅広い実験手法とその意義を学ぶことを目的としたユニットが平成 19 年 4 月より開設されている。

### （3）リハビリテーションバイオメカニクス学の開設

現在わが国のコメディカル分野のうちリハビリテーション分野は、高齢化社会や複雑・高度化する医療現場の担い手として注目されているものの、高度化する医療に対応し切れていない部分がある。このような背景から、本科目を平成 19 年 4 月より開設し、高度な職業人及び教育者の養成を実施している。また、リハビリテーション医療における EBM の実践に注目して、人体の運動機能、すなわちバイオメカニクスを客観的かつ科学的に評価する方法の習得を、評価の実際、データ取得、データ処理、統計処理、論文作成・発表といった一連のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスの科学的評価に特化した講義を実施している。

### （4）感染制御看護師【インフェクション・コントロール・ナース：ICN】養成プログラム

21 世紀に入り世界では、輸入感染症、新興感染症、再興感染症などの様々な感染症の流行が続く、グローバル化と温暖化によってもたらされた感染症の「新たな時代」と言える。感染症の問題は世界的にも重要であり、制御活動、疫学調査、支援、ケアにおいて看護師の果たす役割が大きく期待されている。本プログラムでは、これら国際的な感染症問題にも迅速に、かつ組織の中核となってプロアクティブに対応し、疫学・研究的検証を通し、柔軟に感染管理活動ができる、診断のための高度な検査技能、的確な判断、教育力や倫理調整力、看護実践力の育成

を目指す。本国際実践コースは、前述（P3 参照）の修士論文コース（看護管理教育分野）専攻者で医学以外の学問的背景を持つ看護師、保健師、助産師、あるいは感染管理認定看護師、看護大学卒業者（見込み者含む）等の人材も受け入れ、研究的資質、卓越した能力、教養、人間性を備えた人材を育成する。

## 6 学位授与

本研究科に2年以上在学し、前項の所定の単位を取得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に、「修士（医科学、看護学）」の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、1年以上在学し優れた研究業績を上げた者で所定の要件を満たした場合には、同学位を授与することがある。

## 7 久留米大学大学院医学研究科修士課程が関連する事業・学内プロジェクトについて

○文部科学省「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、生涯のうちに約2人に1人が、がんにかかること推計されているなど、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっており、新たながん対策が求められています。また、「今後のがん対策の方向性について」や、「がん対策加速化プラン」などにおいては、ゲノム医療の実用化に向けた取組の加速化、小児がん及び希少がん対策、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策のほか、緩和ケアに関する教育の推進等が、新たなニーズとして求められています。本プランでは、大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することで、我が国におけるがん医療の一層の推進が求められています。

そのような中、本医学研究科においては、これまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、多様なニーズに対応するがん専門医療人を育成してきました。令和5年度から新たに本プランの共同採択を受けました。

本課程では、専門看護師教育課程にいち早く在宅看護学実習を取り入れ、地域における多職種連携の実践をしています。その実践の中から、在宅ケアに社会が求めるニーズは、在宅療養を推進する地域コーディネート力や多職種間の役割を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材の育成であることが課題として見えてきました。そこで、日本看護協会が認定する高度実践看護師教育課程の科目に加えて、総合大学という強みを生かし教育学のスペシャリストとコラボレーションし、小集団学習、リーダーシップ論の講義・演習を組み込み、がん緩和ケア地域連携教育力の向上をねらうプログラムを平成30年度より立ち上げました。この科目を科目等履修することで、組織的な問題解決能力を修得することができ、地域が求めるコーディネート力を備えた人材を育成するための教育プログラムの履修ができると考えます。

- ・ 専門職養成コース がん看護分野高度実践看護師養成
- ・ インテンシブコース（科目等履修生制度）

**令和 8 年度  
久留米大学大学院医学研究科学生募集要項  
(修士課程)**

**1 募集人員**

医科学専攻： 8名

総合生命科学・バイオ統計学専攻： 8名

看護学専攻： 15名（専門職養成コース 助産学分野助産師資格： 8名）

〔一般選抜試験・社会人特別選抜試験・外国人留学生特別選抜試験を含む〕

**2 出願資格**

次のいずれかに該当する者。

**【A】 一般選抜試験**

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学の卒業生、または令和 8 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者、または令和 8 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者、または令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年 文部省告示第 5 号)
- (6) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (7) 学校教育法第 83 条に定める大学に令和 8 年 3 月 31 日までに 3 年以上在学した者(これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。)であって本研究科が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22 歳に達した者

**【B】 社会人特別選抜試験**

社会人とは、入学時に 2 年以上、企業、教育研究機関にて職務経験を有する者で、令和 8 年 4 月以降も引き続き勤務する者を示す。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学の卒業生、または令和 8 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者、または令和 8 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年 文部省告示第 5 号）
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者

### 【C】外国人留学生特別選抜試験

- (1) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者、または令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- (2) 外国人留学生としてわが国の学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者、または令和 8 年 3 月卒業見込みの者
- (3) 外国人留学生として本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者

### 備 考

- 1. 上記出願資格【A】- (6)・(7)・(8)、【B】- (6)、【C】- (3) に該当する者については、「出願資格審査」を参照してください。
- 2. 上記出願資格の【A】- (7) に該当する者とは、令和 8 年 3 月末日において
  - ① 大学の在籍年数が 3 年以上の者。その場合、休学・留学した期間は年数に算入しない。
  - ② 大学の教育課程の 3 年次を修了し、その時点で 100 単位以上（教職課程を除く）を修得し、且つ A 以上の評価の単位合計が、修得単位合計の 70% 以上であること。注) 受験時に要件を満たさず、見込みで受験したものは、令和 8 年 3 月までに上記条件を満たさなければ入学許可を取り消すものとする。
- 3. 上記出願資格【A】- (8)、【B】- (6)、【C】- (3) に該当する者とは、
  - a) 医療・看護系短期大学、専修学校、各種学校等の既卒業者で、令和 8 年 3 月 31 日までに 22 歳以上に達した者。かつ次の各号の全てに該当する者。
    - I. 医療・看護・福祉系国家試験資格のいずれかを有すること。
    - II. 上記の I の資格で、4 年以上の実務経験を有すること。
    - III. 研究論文、学会・研究会発表等の業績があること。注)：医療・看護・福祉系国家試験資格：
    - ア) 医師（歯科医師・獣医師を含む）、あん摩マッサージ指圧師、はり師・きゅう師、柔道整復師など
    - イ) 看護師、助産師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士・管理栄養士、臨床工学技士、歯科衛生士、歯科技工士、理学療法士、義肢装具士、言語聴覚士、作業療法士、視能訓練士、衛生検査技師など
    - ウ) 精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士など
  - b) 短期大学、専修学校、各種学校等の既卒業者で、令和 8 年 3 月 31 日までに 22 歳以上に達した者。かつ、次の各号の全てに該当する者。
    - I. 医学分野に関係する研究歴または医療・看護・福祉分野に関する実務経験を 4 年以上有すること。（関係機関から実務に関する証明書の提出を要する）
    - II. 研究論文、学会・研究会発表等の業績があること。

### 3 出願資格審査

出願資格の【A】-（6）・（7）・（8）、【B】-（6）、【C】-（3）に該当する者については、事前に出願の資格審査を行うので、下記に定める期間に必要書類をそろえて提出すること。なお、提出前に希望する学群の専攻科目指導教員に入学後の教育・研究について相談すること。

(1) 出願資格審査提出書類（数字を□で囲んだ書類は全員提出すること）

1	出願資格認定申請書	本学所定の様式（様式9）
2	業績一覧表	本学所定の様式（様式8）
3	卒業証明書	出身大学等の所定の用紙。ただし、本学卒業者は提出不要
4	成績証明書	出身大学等の所定の用紙。ただし、本学卒業者は提出不要
5	医療・看護系免許証の写	出願資格【A】-（8）、【B】-（6）、【C】-（3）の該当者のみ
6	在職期間証明書 （4年以上の実務経験を有する証明書）	出願資格【A】-（8）、【B】-（6）、【C】-（3）の該当者のみ

(2) 出願資格審査受付期間

前期	令和7年6月9日（月）～令和7年6月13日（金）必着
後期	令和7年11月10日（月）～令和7年11月14日（金）必着

注）出願資格審査受付期間外に提出された書類は受理しない

※ 出願資格を認められた者には、出願資格認定通知書を交付する。出願資格認定通知書は次年度まで有効とする。

※ 郵送で提出する場合は書留郵便のみとする。封筒の表に「大学院医学研究科修士課程 出願資格審査 申請書類在中」と朱書きして提出のこと。

※ 受付時間は、土・日曜・祝日を除く9:00～17:00（12:00～13:00は除く）

※ 提出された書類は返却しない。

(3) 提出先 P12を参照

(4) 審査結果

審査結果は、出願期間前に本人に（郵送により）通知する。

※ 出願資格審査にて通過した者は、大学院医学研究科入学試験を受験することができる。

### 4 出願手続

出願にあたっては、事前に希望する学群の専攻科目指導教員に入学後の教育・研究等について相談の上、下記書類を一括して提出すること。

\*印：出願資格審査に通過した者が出願手続を行う場合、既に提出済の書類については省略できる。

入学願書	本研究科所定の用紙に記入のこと。(様式1)
志願理由書	本研究科所定の用紙に従って、500字以内で記入すること。(様式2)
*調査書 (成績証明書)	出身大学・短期大学・専修学校等の所定の用紙に証明したもの。 (ただし、本学卒業(見込み)者は提出不要)
写真(2枚)	出願前3ヶ月以内に撮影の正面上半身脱帽(横4cm・縦5cm)のもの。 1枚は入学願書に、1枚は受験票に貼付のこと。
*卒業(見込み)証明書 (1通)	出身大学・短期大学・専修学校等の所定の用紙に証明したもの(ただし、本学卒業(見込み)者は提出不要)。 なお、外国において学校教育における16年の課程の修了(見込み)者は、このことを証明する書類を提出すること。さらに、同者は <u>出身大学学長もしくは指導教官による推薦書(書式は任意)を併せて提出</u> すること。
受験票	本研究科所定の用紙に記入すること。(様式3)
入学検定料	30,000円(様式4) 本学所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・農業協同組合)の窓口 <sup>に</sup> 検定料を添えて提出してください。(ゆうちょ銀行、コンビニエンスストア及びインターネットによる振込みはできません。)ひとたび納入された検定料は、理由の如何を問わず返還しない。 ※検定料振込明細書兼領収書の写しを提出すること。
受験承諾書	本研究科所定の用紙に記入すること。(様式5) 社会人特別選抜試験受験者のみ、勤務先等の所属長が作成し、提出すること。
長期履修学生制度申請書	本研究科所定の用紙に記入すること。(様式6) 社会人特別選抜試験受験者で、長期履修学生制度の希望者のみ提出すること。
在職証明書	社会人特別選抜試験受験者で、長期履修学生制度の希望者のみ提出すること。※在職期間証明書とは異なる。
出願資格認定通知書の写	出願資格認定通知書の交付を受けた者は、その写しを提出すること。
英語試験科目免除申請者 ※バイオ統計学は対象外	当該事項の証明書を提出すること。P13参照
学位授与証明書	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者のみ提出すること。 授与見込みの場合は申請受理証明書を提出すること。
在留カード及びパスポートの写し ※外国人留学生特別選抜試験受験者のみ	外国人留学生特別選抜試験試験受験者は、在留カード及びパスポートのコピーを提出すること。本邦外に居住する外国人で在留カード所持していない場合は、パスポートのコピーのみ提出すること。
留学生調査書 ※外国人留学生特別選抜試験受験者のみ	本研究科所定の用紙(別途配布)になるので、出願資格審査前までに医学部事務部教務課(連絡先別記)へ連絡すること。 注1: 外国語で作成された証明書等の種類には日本語訳を添付すること。 注2: 改姓等により証明書と氏名が異なる場合、戸籍抄本等証明可能な書類を提出すること。 注3: 経費支弁に係る証明書等を添付すること。

※看護学専攻専門職養成コース志願者は、上記の出願手続書類に加え、次の書類を**同時に提出**すること。

(1) 高度実践看護師養成

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| { | ① 業績調書 (本学所定用紙 様式7)   |
|   | ② *業績一覧表 (本学所定用紙 様式8) |
|   | ③ *医療・看護系免許証の写        |

(2) 助産学分野助産師資格・上級実践

- ① 助産学分野助産師資格は看護師免許証の写又は登録済証明書の写真
- ② 助産学分野上級実践は助産師免許証の写

5 出願受付期間及び提出先

(1) 出願期間

前 期	令和 7 年 7 月 14 日 (月) ~ 令和 7 年 7 月 18 日 (金) 必着
後 期	令和 7 年 12 月 15 日 (月) ~ 令和 7 年 12 月 19 日 (金) 必着

注) 出願受付期間外に提出された書類は受理しない。

※ 郵送で提出する場合は書留郵便のみとする。封筒の表に「大学院医学研究科修士課程 出願申請書類在中」と朱書きして提出のこと。

※ 受付時間は、土・日曜・祝日を除く 9:00~17:00 (12:00~13:00 は除く)。

(2) 入学願書提出先及び照会先

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67	
久留米大学大学院医学研究科入学試験係 (医学部事務部教務課内)	
TEL	0942 (31) 7528 (直通)
E-mail	igaku-kyomu@kurume-u.ac.jp
ホームページ	<a href="https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/gmed/examination/">https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/gmed/examination/</a>

(出願手続きに関する留意事項)

※ 提出された書類は返却しない。

※ 出願後の入学願書等の記載事項の変更は認めない。また、出願書類に虚偽の記載が判明した場合やその他不正な事実が判明した場合、出願資格を出願日に遡り喪失するとともに、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。

6 入学選抜方法

(1) 入学者の選抜は、(3)に示す試験科目及び調査書等を総合して判定する。

(2) 試験期日

前 期	令和 7 年 8 月 19 日 (火)
後 期	令和 8 年 1 月 13 日 (火)

※ 前期入試で合格しなかった場合、後期入試に出願することを妨げない。

(3) 試験科目及び場所

【医科学専攻・総合生命科学・バイオ統計学専攻 (総合生命科学群)・看護学専攻】

試験科目	時間	場 所
英 語	9:30~10:30	久留米大学医学部 教育1号館5階 1501教室
小論文	11:00~12:00	
面接	13:00~	同上会場にて指示する。

① 試験当日は、午前9時10分までに、試験場所に集合すること。

② 英語は、筆記試験を行う。(辞書持込み可、電子辞書持込み不可)

③ 看護学専攻 専門職養成コース 助産学分野助産師資格においては、特に基礎学力として成績証明書を合否の判定に用いる。

【総合生命科学・バイオ統計学専攻 バイオ統計学群】

試験科目	時間	場所
英語	10:30～12:00	久留米大学医学部 教育1号館2階 第1会議室
面接	13:00～	同上会場にて指示する。

- ① 試験当日は、午前10時10分までに、試験場所に集合すること。
- ② 英語は、高等学校数学Ⅰ・Ⅱ程度の問題を英語で出題する。(辞書持込可、電子辞書持込不可)

[英語試験科目免除条件] ※注) 総合生命科学・バイオ統計学専攻 バイオ統計学群は対象外。

次の条件①～③のいずれかを満たしている場合には英語試験を「免除」する。

該当者は受験願書とともに当該事項の証明書(写し可)を提出すること。

- ① TOEIC (Listening&Reading Test) 650点以上
- ② TOEFL 65点以上
- ③ 実用英語技能検定2級以上

※スコア有効期限については、受験年を含めて過去4年以内とする。

ただし、実用英語技能検定についてはその限りではない。

※英語試験科目を免除された場合、英語試験科目の点数は合格最低点とする。

尚、「英語試験」免除を申請している受験者は、希望により英語試験科目を受験できる。その場合、高得点の方を受験者の英語科目の成績とする。

## 7 合格発表

前期	令和7年9月12日(金) 午前10時	医学研究科ホームページに掲載するとともに、受験者全員に合否を郵送にて通知する。
後期	令和8年2月13日(金) 午前10時	

## 8 入学手続(入学金・学納金及び入学手続書類締切)

前期	令和7年9月26日(金) 必着	所定の期日までに入学手続きを完了しない場合は、入学許可を取り消す。
後期	令和8年2月20日(金) 必着	

## 9 入学金及び学納金

### ○医科学専攻・総合生命科学・バイオ統計学専攻

入学金	240,000円	(本学卒業生は120,000円)
授業料 前期分	240,000円	(年額480,000円)
実験実習料 前期分	60,000円	(年額120,000円)
教育充実料 前期分	30,000円	(年額60,000円)

## ○看護学専攻

〈修士論文コース・専門職養成コース（助産学分野を除く）〉

入 学 金	240,000 円	(本学卒業生は 120,000 円)
授 業 料 前期分	240,000 円	(年額 480,000 円)
実 験 実 習 料 前期分	60,000 円	(年額 120,000 円)
教 育 充 実 料 前期分	30,000 円	(年額 60,000 円)

〈専門職養成コース 助産学分野助産師資格〉

入 学 金	240,000 円	(本学卒業生は 120,000 円)
授 業 料 前期分	400,000 円	(年額 800,000 円)
実 験 実 習 料 前期分	120,000 円	(年額 240,000 円)
教 育 充 実 料 前期分	30,000 円	(年額 60,000 円)

〈専門職養成コース 助産学分野上級実践〉

入 学 金	240,000 円	(本学卒業生は 120,000 円)
授 業 料 前期分	240,000 円	(年額 480,000 円)
実 験 実 習 料 前期分	90,000 円	(年額 180,000 円)
教 育 充 実 料 前期分	30,000 円	(年額 60,000 円)

※ 長期履修学生については P16 を参照ください。

※ 入学手続完了者がやむをえない理由で入学を辞退する場合、令和 8 年 2 月 20 日（金）午後 5 時まで（必着）に入学辞退届（書式は任意）を提出した者に限り、入学手続時納入金から入学金を差し引いた金額を返還する。上記期日までに入学辞退届がない場合は、既納金は一切返還しない。

## 10 学外実習料

看護学専攻専門職養成コース（助産学分野助産師資格・上級実践を除く）専攻者は、別途学外実習料として年額 60,000 円を徴収する。ただし、当分の間、感染症看護分野国際実践専攻者は除く。

## 11 久留米大学大学院医学研究科奨学金制度

大学独自の奨学金制度（貸与月額 85,000 円）がある。

## 12 その他奨学金制度

「授業料後払い制度」を希望する者は、ホームページ上の「授業料後払い制度」希望申請書を記入し、**出願書類に同封**すること。

## 13 外国人留学生学納金減免制度

外国人留学生の希望者は選考により、学納金（入学金・授業料）を若干名、全額免除または半額免除する。

## 14 注 意 事 項

- 1) 受験票は、**試験当日に交付するので、入学検定料の領収書交付をもって出願手続完了**とする。
- 2) **出願手続後の志望専攻の変更は認めない**。但し、総合生命科学・バイオ統計学専攻 バイオ統計学群を志望するものについては、入学後 1 年間は「**暫定指導教授**」とし、修士課程 2 学年に進学した時点で最終的な指導教授を決定する。
- 3) 入学手続きに際し、卒業見込みの者は卒業後、直ちに「**卒業証明書**」、「**医療系・看護系・福祉系免許証の写**」を提出すること。
- 4) 助産学分野助産師資格については、看護師国家試験合格発表後、速やかに厚生労働省発行の「**登録済証明書**の写」を提出すること。提出がない場合、入学後であっても、入学を取り消すことがある。
- 5) 出願資格【A】の（7）に該当する者は、3 年次修了後、直ちに「**成績証明書**」を提出すること。
- 6) 大学院医学研究科入試問題の過去問題は、教育 1 号館 2 階ホール内（医学部事務部教務課前）にて、平日 9：00～16：00（但し、土・日・祝祭日、本学休業日を除く）で閲覧のみ可能（コピーは不可）である。

### 個人情報の取り扱いについて

- \* 本学では「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じております。
- \* 出願及び入学手続きにあたって提供頂いた個人情報は、入学試験の実施、合格発表、入学手続き、入学後の履修関係、教務・学籍関係、及び学生生活関係に必要な業務において使用させていただいております。
- \* 本学が取得した個人情報は、本人の承諾なしに第三者へ開示・提供することはありません。

## 長期履修学生制度について

**長期履修学生制度**は、社会人を対象とした長期（3年間）にわたる修士課程の履修を認める制度です。希望者は事前に教務課へご相談ください。

### ○ 制度概要

#### (1) 対象者

修士課程社会人特別選抜試験を受験し合格したもので、入学許可を得たものを対象とする。但し、やむをえない事由により4月以降常勤の業務に従事しない場合が発生した場合は、長期履修学生の対象とはならないので注意すること。

#### (2) 資格

長期履修学生制度の適用される基準は以下の通りである。

- ① 企業・公共団体等における常勤の職員又は自ら事業を行っているもの
- ② その他長期履修学生制度を適用するに足ると認められたもの

#### (3) 受入認否について

対象者は指導教授と相談の上、申請するか否かを判断する。申請された場合、該当者の申請書類等を精査し、受入認否について確定する。認否については本人に文書で通知する。申請が認められない場合でも入学に関する取り消しは行わない。

#### (4) 修了要件及び取得単位

修了認定及び学位授与については、履修方法を除き一般学生と同一とする。

#### (5) 標準在学期間および在籍許可期間

- ・標準在籍期間は3年間とする。
- ・在学期間延長を含め、最長5年間在籍可能とする。休学は本制度の趣旨を踏まえつつも、長期在籍を避ける観点から、通算2年間まで許可する。

#### (6) 受入に関する要件

- ・早期学位修得制度は適応除外とする。
- ・出願手続き時に長期履修学生制度申請書並びに在職証明書を提出する。
- ・出願手続き後の変更は認めない。

#### (7) 学納金の取り扱い

- ・学費は通常2年間で支払う学費の総計を3年分に除して得た金額を1年間の学費として納付する。但し、4年目以降の在学期間延長時には、標準在学年限の1年分の学費を徴収する。また、実験実習料及び教育充実料については学則に基づいた金額を納付する。

#### (8) 学外実習料

- ・専門看護師教育課程専攻者は、別途学外実習料として年額40,000円を徴収する。ただし、当分の間、感染症看護分野国際実践専攻者は除く。

### <学納金(例)>

#### ○医科学専攻・総合生命科学・バイオ統計学専攻

	1年次		2年次		3年次		合計
	入学時	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	240,000						240,000
(本学出身)	120,000						120,000
授業料	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	960,000
実験実習料	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	240,000
教育充実料	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	120,000
合計(他学卒)	680,000		440,000		440,000		1,560,000
(本学卒)	560,000		440,000		440,000		1,440,000

## 専攻内容及び指導教授

### ○医科学専攻

学群	専攻科目	主な研究分野	指導教授
基礎医学	生体構造・細胞生物学	肉眼解剖学的研究 臨床解剖学的研究（低侵襲治療法の開発など） ・心臓、血管系の形態 ・運動器の機能解剖学（下肢など） ・胸腹部内臓の解剖学 ・頭頸部顔面領域の解剖学 ・移植組織（皮弁など）の血行形態の解析	解剖学講座 (肉眼・臨床解剖部門) 渡部 功一
		・次世代シーケンスを用いた転写制御機構の研究 ・単一細胞解析による新たな細胞集団の同定と機能解明 ・ゲノム編集マウスの作成による遺伝子の発現制御機構の研究	解剖学講座 (顕微解剖・生体形成部門) 嶋 雄一
		・先端的顕微鏡観察技術の開発およびその応用による生体構造解析 ・FIB-SEM tomography など電顕三次元解析技術を用いた細胞性ネットワークの可視化とその生理学的意義 ・3D 光電子相関顕微鏡法 (CLEM) によるミトコンドリアの空間的動的構造解析 ・エクソソーム分泌の動的可視化 ・骨・筋・血管・神経の機能解剖学	先端イメージング研究センター 太田 啓介
学群	神経科学・臨床生理学	・神経生理学研究 神経精神疾患を引き起こす発症機構の解明と、それに対する生理学的知見を活用した新規治療法の開発 ・神経科学 ・神経・精神病態学 ・電気神経生理学 ・光遺伝学	生理学講座 (脳・神経機能部門) 吉田 史章
		・イオンチャネルの電気生理学および分子生物学的解析 ・細胞内シグナリングの生理学 ・神経の活動電位発生メカニズムの解析 ・中枢神経系における HCN チャネルの機能解析	生理学講座 (統合自律機能部門) 中島 則行
	代謝病態学	・心血管病、糖尿病、痛風などの代謝性疾患、がん、自己免疫病のゲノム解析と分子病態の解明、ならびに上記疾患のエピゲノムバイオマーカー同定とその疾病罹患における意義の解明 ・単一遺伝病の家系分析と責任遺伝子の同定	医化学講座 山本 健

学群	専攻科目	主な研究分野	指導教授	
基礎医学群	臨床薬理学	神経・精神薬理学 ・ドーパミンにより活性化される細胞内情報伝達系、特にリン酸化シグナルの研究 ・ドーパミン神経の変性と再生に関する研究 ・Microdialysis 法を用いた神経伝達物質放出に関する研究 ・薬物依存の神経化学的及び行動薬理学的研究	薬理学講座 ○西 昭 徳	
	病理・病態学	・人体病理、腫瘍の組織発生	病理学講座 秋 葉 純	
		・リンパ腫を主体とした血液疾患の分子臨床病理学的検討 ・腫瘍周囲環境分子の空間的発現・変異解析 ・病理画像 AI を用いたバイオマーカーの検索	病理学講座 三 好 寛 明	
	医学群	感染病態学	・細菌学 ・ゲノム微生物学 ・病原性進化学 ・細菌に対する感染防衛機構 ・細菌感染症の新規治療薬の開発	感染医学講座 (基礎感染医学部門) 小 椋 義 俊
			・感染症 ・院内感染対策 ・熱帯医学 ・旅行医学	感染制御学講座 ○渡 邊 浩
			ウイルス学 生化学 (ウイルス遺伝子複製酵素の解析) 分子生物学(ウイルス遺伝子とタンパク質の解析)	医学教育研究センター 柏 木 孝 仁
リボソーム DNA 系統樹上、われわれ哺乳類から最もはなれた最古の真核生物であるキネトプラスト科に属するアフリカ睡眠病を起こすブルーストリパノゾーマ原虫を用い、哺乳類にも存在するリン酸化依存性シャペロン 14-3-3 分子のシグナル伝達機構の差異の解明及び、ヒト 14-3-3 分子の新しい機能の発見に主眼を置く。また、14-3-3 分子のシグナルの影響を受ける分子をターゲットとした治療薬のスクリーニングも行う。			感染医学講座 (真核微生物学部門) 井 上 雅 広	

学群	専攻科目	主な研究分野	指導教授
基礎医学群	生体防御学	・免疫全般、特に腸管免疫及び免疫抑制細胞を利用した免疫治療に関する研究	免疫学講座 溝口充志
		・マウスモデルおよびヒト臨床検体を用いた、炎症性腸疾患 (IBD) 発症における第一線の生体防御である腸管細胞上皮細胞の機能的機序解明	免疫学講座 溝口恵美子
	化学生物学 (ケミカルバイオロジー)	・核酸アプタマーのスクリーニングと疾患モデル動物への応用 ・タンパク質の翻訳後修飾による機能制御 ・ケミカルバイオロジーを基盤とする創薬シーズの探索	自然科学・化学 東元祐一郎
社会医学群	疫学・予防医学	・医療政策 ・医療経済 ・疫学 ・医療リアルワールドデータ分析	公衆衛生学講座 谷原真一
	環境医学	産業医学 1) 高圧環境 (潜水) の健康影響 2) 振動障害の予防と健康管理 3) 医療・福祉従事者の健康管理 環境医学 1) 電磁波の生体への健康影響 2) 室内空気汚染、シックハウス症候群 地域保健 1) HIA (Health Impact Assessment) の適用研究	環境医学講座 ○石竹達也
	人類遺伝学	・血液型、血清蛋白の法医学的研究 ・血液型物質合成酵素フコース転移酵素群の人類遺伝学的研究	法医学講座 ○神田芳郎
	健康科学	・運動 (身体活動) を主体とした生活習慣の変化と疾病予防に関する臨床的研究。身体活動や栄養摂取が生活習慣病の病態および動脈硬化危険因子に及ぼす影響に関する研究	学長直属 吉田典子
	リハビリテーションバイオメカニクス学	・筋骨格系のリハビリテーション医学 ・運動療法による健康増進 ・慢性疼痛に対する運動療法 ・電気刺激療法 ・運動器のバイオメカニクス ・不活動による筋骨格系の萎縮と予防法に関する研究 ・筋骨連関と運動に関する研究 ・宇宙空間での筋骨格機能の維持、運動法に関する研究	大学病院リハビリテーション部 松瀬博夫

※社会医学群 医療・医学教育学 (令和8年度開講予定)

○総合生命科学・バイオ統計学専攻

学群	専攻科目	主な研究分野	指導教授
総合生命科学群	遺伝情報学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飢餓適応に関する研究（特に、摂食制御と体温制御の側面からの理解）〔分子生物学・神経内分泌学〕</li> <li>・ 食嗜好の形成機構に関する研究〔分子生物学・神経内分泌学〕</li> <li>・ 新規生理活性ペプチドの探索研究〔分子生物学・生化学〕</li> </ul>	分子生命科学研究所 (遺伝情報部門) 佐藤 貴弘
	細胞工学	<p>細胞増殖制御の分子生物学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養環境変化に対する増殖抑制機構の解明</li> <li>・ 染色体分配の正確性を保障する分子機構の解明</li> </ul>	分子生命科学研究所 (細胞工学部門) 齋藤 成昭
	研究マネジメント	<p>研究のソフト面について学び、研究者として、また研究者を支援するリサーチアドミニストレーター（URA）として独立していける能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学文章の書き方</li> <li>・ 研究費獲得、アカデミックポジション応募のための申請書の書き方</li> <li>・ 科学プレゼンテーション</li> <li>・ 知的財産マネジメント</li> <li>・ 産学研究連携マネジメント</li> <li>・ 研究者倫理学</li> </ul>	分子生命科学研究所 (遺伝情報部門) 佐藤 貴弘
バイオ統計学群	バイオ統計学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生存時間データの解析手法</li> <li>・ 環境疫学データの統計モデリングとリスク解析</li> <li>・ ベイズ統計モデル</li> </ul>	バイオ統計センター 古川 恭治
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械学習を用いたバイタル/生活習慣データの解析</li> <li>・ 生体機能イメージングの統計学的画像再構成法の開発</li> <li>・ 疾患におけるレドックスの統計解析</li> </ul>	バイオ統計センター 安川 圭司
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率的な臨床試験デザイン開発・研究</li> <li>・ 診断法比較のための統計解析法の開発・研究</li> <li>・ 実践的なバイオ統計コンサルテーション</li> </ul>	医療検査学科 室谷 健太

○看護学専攻

コース	専攻分野	主な研究分野	指導教授
修士論文コース	看護教育管理分野	<p>看護教育管理におけるゼネラリストの養成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>益守 かづき 小児看護・小児保健領域・子どもとその家族における倫理問題及び教育管理に関する研究</li> <li>田中 佳代 人の性や生殖にかかわる健康問題と支援における教育管理に関する研究</li> <li>重松 由佳子 地域で生活する人々への健康支援及び住民・専門職の教育管理に関する研究</li> <li>古村 美津代 老年看護、高齢者とその家族における倫理問題および教育管理に関する研究</li> <li>嵯峨 堅 ・人体構造の基本と看護学領域への応用研究 ・人体解剖学、肉眼解剖学、組織学、形態形成、比較解剖学など ・研究・教育標本作製（ヒト、各種動物） ・解剖学教育、教育教材開発、プレゼンテーション技法研究</li> <li>加悦 美恵 看護教育と管理および看護技術や看護倫理に関する研究</li> <li>崎浜 智子 ・看護管理領域における実践的課題の探求と質向上に関する研究 ・看護教育・管理領域におけるキャリア支援に関する研究 ・看護管理者のコンピテンシーに関する研究</li> <li>桐明 あゆみ ・慢性疾患患者と家族の看護における倫理的問題、および教育管理に関する研究</li> </ol>	<p>看護学科 益 守 かづき</p> <p>看護学科 田 中 佳 代</p> <p>看護学科 重 松 由佳子</p> <p>看護学科 古 村 美津代</p> <p>看護学科 嵯 峨 堅</p> <p>看護学科 加 悦 美 恵</p> <p>看護学科 崎 浜 智 子</p> <p>看護学科 桐 明 あゆみ</p>
専門職養成コース	がん看護分野 高度実践看護師養成 ※日本看護系大学協議会認定課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんと共に生きる患者とその家族の療養生活支援に関する研究</li> <li>・がん患者と家族を支えるケアシステムに関する研究</li> </ul>	看護学科 桐 明 あゆみ
コース	感染症看護分野 高度実践看護師養成・国際実践 ※日本看護系大学協議会認定課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関連感染症の予防と管理に関する課題研究</li> <li>・感染症の実地疫学調査に関する研究</li> <li>・感染症に伴う倫理的課題に関する研究</li> <li>・感染症の歴史と社会に関する研究</li> </ul>	看護学科 崎 浜 智 子

コース	専攻分野	主な研究分野	指導教授
専門職養成コース	老年看護分野 高度実践看護師養成 ※日本看護系大学協 議会認定課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者および介護者の支援に関する研究</li> <li>・高齢者の健康問題と看護支援に関する研究（在宅・施設）</li> <li>・高齢者のケアシステムに関する研究</li> </ul>	看護学科 古村 美津代
	小児看護分野 高度実践看護師養成 ※日本看護系大学協 議会認定課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気を抱える子どもと家族のケアに関する研究</li> <li>・子どものヘルスプロモーションに関する研究</li> <li>・子どもと家族に関わるケアシステムに関する研究</li> </ul>	看護学科 益守 かづき
	助産学分野 助産師資格・ 上級実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期の母子に対する助産ケアと健康支援に関する研究</li> <li>・女性のライフステージにおけるウイメンズヘルスに関する研究</li> <li>・糖尿病を持つ女性のウイメンズヘルスに関する研究</li> </ul>	看護学科 田中 佳代

備考：1. 専攻科目については令和7年4月現在のものを掲載する。なお、令和8年度にカリキュラムが改正される場合がある。

2. ○の指導教授は令和7年度退職予定である。

医科学専攻【基礎医学群・社会医学群】

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位	配当年次		
		講・演				講・演			
基礎医学群	人体構造学	2	1・2	専攻科目	基礎医学群	生体構造・細胞生物学	4	1・2	
	人体機能学	2	1・2			神経科学・臨床生理学	4	1・2	
	臨床医学概論	2	1・2			代謝病態学	4	1・2	
	社会医学概論	1	1・2			臨床薬理学	4	1・2	
	物理学特論	1	1・2			病理・病態学	4	1・2	
	生物学特論	1	1・2			感染病態学	4	1・2	
	化学特論	1	1・2			生体防御学	4	1・2	
	医学教育学	4	1・2			※基礎医学演習	4	1	
	生命倫理 I	1	1・2			社会医学群	環境医学	4	1・2
	臨床遺伝学	1	1・2				疫学・予防医学	4	1・2
	移植医学	1	1・2	人類遺伝学	4		1・2		
	リハビリテーション医学	1	1・2	健康科学	4		1・2		
	医学工学概論	1	1・2	リハビリテーションバイオメカニクス学	4		1・2		
	実験動物学	1	1・2	※社会医学演習	4		1		
	基礎医学目	看護倫理	2	1・2	2つの学群から1つの学群を選択し、 8単位以上(学群演習4単位必修含む)				
		看護研究方法	2	1・2					
		看護政策論	2	1・2					
		看護理論	2	1・2					
		コンサルテーション論	2	1・2					
		先端的・分野特異的研究手法体験ユニット	2	1・2					
バイオ統計基礎ユニット		1	1・2						
バイオ統計応用ユニット		2	1・2						
基礎医学目	知的財産権論	2	1・2	準専攻科目	自身が選択した専攻科目以外の専攻科目 (講義) から4単位必修				
	臨床研究入門	2	1・2						
	臨床薬理学概論	2	1・2						
	フィジカルアセスメント	2	1・2						
	病態生理学	2	1・2						
	医療経営	2	1・2						
	医療経済学	2	1・2						
	看護管理論	2	1・2						
セミナーシリーズ	大学院セミナーシリーズ	1	1・2	共通科目	論文指導演習	4	1～2		
	特別講義 (1単位必修)								
10単位以上選択必修									
1年次後期から2年次前期にかけて履修。 4単位必修。専攻科目の履修要件に充当する。									
選択科目：自身が履修した科目以外の科目から3単位以上									
合計：30単位以上(修士論文の審査に合格した者) ※の科目は当該学群を選択する者は必須。									

総合生命科学・バイオ統計学専攻【総合生命科学群・バイオ統計学群】

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位	配当年次
		講・演				講・演	
基礎科目	人体構造学	2	1・2	総合生命科学・バイオ統計学専攻 総合生命科学群	研究倫理	2	1
	人体機能学	2	1・2		分子細胞生物学	2	1
	臨床医学概論	2	1・2		ゲノム生物学概論	2	1
	社会医学概論	1	1・2		オミクス解析特論	1	1
	物理学特論	1	1・2		バイオインフォマティクス特論	1	2
	生物学特論	1	1・2		研究マネジメント	2	1
	化学特論	1	1・2		サイエンスコミュニケーション	2	1
	医学教育学	4	1・2		科学文章の書き方と論文作成	2	1
	生命倫理 I	1	1・2		バイオベンチャー論	2	1
	臨床遺伝学	1	1・2		疾患の生命科学	2	1
	移植医学	1	1・2		細胞内オルガネラの分子生物学	2	1
	リハビリテーション医学	1	1・2		細胞シグナリング	2	1
	医学工学概論	1	1・2		臓器関連の分子生物学	2	1
	実験動物学	1	1・2		摂食・ストレス・老化の科学	2	1
	看護倫理	2	1・2		生体のエネルギー代謝科学	2	1
	看護研究方法	2	1・2		バイオサイエンス実験法	2	1
	看護政策論	2	1・2		バイオサイエンス実験法（実習）	2	2
	看護理論	2	1・2		実験動物のサイエンス	2	1
	コンサルテーション論	2	1・2		実験動物のサイエンス（実習）	2	2
	先端的・分野特異的研究手法体験ユニット	2	1・2		モデル生物のサイエンス I: 酵母	2	1
	バイオ統計基礎ユニット	1	1・2		モデル生物のサイエンス I: 酵母（実習）	2	2
	バイオ統計応用ユニット	2	1・2		モデル生物のサイエンス II: ショウジョウバエ、線虫	2	1
	知的財産権論	2	1・2		モデル生物のサイエンス II: ショウジョウバエ、線虫（実習）	2	2
	臨床研究入門	2	1・2		バイオサイエンスのデータベース・大規模データ解析論	2	2
	臨床薬理学概論	2	1・2		バイオサイエンスのデータベース・大規模データ解析論（実習）	2	2
	フィジカルアセスメント	2	1・2		バイオサイエンス研究のプロトコル作成と研究デザイン	2	2
	病態生理学	2	1・2		バイオサイエンス研究のプロトコル作成と研究デザイン（実習）	2	2
	医療経営	2	1・2		バイオベンチャー・インターンシップ	2	2
	医療経済学	2	1・2				
	看護管理論	2	1・2				
10 単位以上選択必修				総合生命・バイオ共通科目および総合生命科学群から 26 単位以上			

区分	授 業 科 目	単 位	配 当 年 次	区分	授 業 科 目	単 位	配 当 年 次		
		講・演				講・演			
専 門 応 用 科 目	バ イ オ 統 計 学 群	臨床試験の基礎とデータ解析	2	1	専 門 応 用 科 目	バ イ オ 統 計 学 群	環境データ解析特論	1	1
		医用データ解析	2	1			バイオデータモデリング	2	1
		バイオデータ解析入門	2	1			機械学習特論	2	1
		観察データ解析概論	2	1			プロトコル作成と研究デザイン	1	2
		ゲノムサイエンス概論	2	1			観察データ解析特論Ⅱ	1	1
		薬物動態・薬力学データの解析	1	1			臨床データ解析特論	1	1
		バイオ統計基礎	4	1			バイオ統計セミナーⅠ	3	1・2
		バイオ統計数理	4	1			バイオインフォマティクスセミナーⅠ	3	1・2
		生存分析とその応用	2	1			バイオ統計セミナーⅡ	4	1・2
		観察データ解析特論Ⅰ	1	1			バイオインフォマティクスセミナーⅡ	4	1・2

総合生命科学専攻：合計 36 単位以上（基礎科目の選択科目から 10 単位、専門応用科目（総合生命科学）の必修科目 18 単位、専門応用科目（総合生命科学）の選択科目 8 単位以上）（修士論文の審査に合格した者）

バイオ統計学専攻：専門応用科目（バイオ統計学）の選択科目 30 単位以上（修士論文の審査に合格した者）

（注 1） 講は講義、演は演習を示す。

（注 2） バイオ統計セミナーⅠかバイオインフォマティクスセミナーⅠのどちらか一方は必修とする。

（注 3） バイオ統計セミナーⅡかバイオインフォマティクスセミナーⅡのどちらか一方は必修とする。

（注 4） 上記注記 2・3 を除くすべての科目は、選択必修とする。

（注 5） 基礎科目を履修することができる。

## 看護学専攻 修士論文コース【看護教育管理分野】

区分	授 業 科 目	単 位	配 当 年 次	区分	授 業 科 目	単 位	配 当 年 次		
		講・演				講・演			
基 礎 科 目	人体構造学	2	1・2	看 護 教 育 管 理 分 野	※看護教育管理特論Ⅰ	2	1・2		
	人体機能学	2	1・2		※看護教育管理特論Ⅱ	2	1・2		
	臨床医学概論	2	1・2		看護教育管理学演習	2	1・2		
	社会医学概論	1	1・2		※医療情報管理学演習	4	1・2		
	物理学特論	1	1・2		保健科学看護特論Ⅰ	2	1・2		
	生物学特論	1	1・2		保健科学看護特論Ⅱ	2	1・2		
	化学特論	1	1・2						
	医学教育学	4	1・2		特 別 研 究	教育管理学研究演習	4	1	
	生命倫理Ⅰ	1	1・2			教育管理学的特別研究	4	2	
	臨床遺伝学	1	1・2		<b>※専攻分野共通科目（8単位必修）</b>				
	移植医学	1	1・2		その他の専攻分野共通科目、 がん看護分野、老年看護分野、小児看護分野の 専攻分野共通科目、または感染症看護分野の 「感染病態学特論」「感染看護学特論」、 または助産学分野の「助産学概論」「ウィメンズ ヘルス特論」から 4単位以上選択必修				
	リハビリテーション医学	1	1・2						
	医学工学概論	1	1・2						
	実験動物学	1	1・2						
	看護倫理	2	1・2						
	看護研究方法	2	1・2						
	看護政策論	2	1・2						
	看護理論	2	1・2						
	コンサルテーション論	2	1・2						
	先端的・分野特異的研究手法体験ユニット	2	1・2						
	バイオ統計基礎ユニット	1	1・2						
	バイオ統計応用ユニット	2	1・2						
	知的財産権論	2	1・2						
	臨床研究入門	2	1・2						
	臨床薬理学概論	2	1・2						
	フィジカルアセスメント	2	1・2						
	病態生理学	2	1・2						
	看護管理論	2	1・2						
<b>9単位以上選択必修</b>									
セ ミ ナ ー シ リ ー ズ	大学院セミナーシリーズ	1	1・2	<b>特別研究（8単位必修）</b>					
	<b>特別講義（1単位必修）</b>								
<b>合計：30単位以上（修士論文の審査に合格した者）</b>									

**看護学専攻 専門職養成コース**  
**【がん看護分野 高度実践看護師養成】**  
**(※がん看護専門看護師教育課程【38単位】)**

区分	授業科目	単位		区分	授業科目	単位		配当年次	
		講・演	配当年次			講・演	実		
共通科目A	看護倫理	2	1・2	がん看護分野	がん診断治療学	2		1・2	
	看護研究方法	2	1・2		専攻分野共通科目	がん看護特論	2		1・2
	看護政策論	2	1・2		がん看護援助論	2		1・2	
	看護理論	2	1・2		がん緩和ケア地域連携教育論	2		1・2	
	コンサルテーション論	2	1・2		がん薬物療法看護特論Ⅰ	2		1・2	
共通科目B	臨床薬理学概論	2	1・2		専攻分野専門科目	がん薬物療法看護特論Ⅱ	2		1・2
	フィジカルアセスメント	2	1・2		がん緩和ケア特論Ⅰ	2		1・2	
	病態生理学	2	1・2		がん緩和ケア特論Ⅱ	2		1・2	
共通科目A+B 14単位以上必修 共通科目A 8単位以上 共通科目B 6単位  共通科目は修士論文コースの基礎科目のそれぞれの該当授業科目を読み替える。					がん看護学特別研究	4		1・2	
					実践科目	がん看護学実習Ⅰ		2	1
				がん看護学実習Ⅱ		1	1		
				がん看護学実習Ⅲ		3	2		
				がん看護学実習Ⅳ		2	2		
				がん看護学実習Ⅴ		2	2		
<b>すべて必修</b>									
<b>合計：42単位以上（共通科目14単位以上、専攻分野共通科目6単位、同専門科目12単位、実習科目10単位を履修）。修士論文の審査に合格した者（修士論文は高度実践看護師申請に即したものが望ましい）</b>									

(注1) 講は講義、演は演習、実は実習を示す。

(注2) 原則として、「がん看護分野高度実践看護師養成」の学生のための履修とする。

(注3) がん緩和ケア地域連携教育論およびがん看護学特別研究は、日本看護系大学協議会において認定された科目ではない。

**看護学専攻 専門職養成コース**  
**【感染症看護分野 高度実践看護師養成】**  
**(※感染症看護専門看護師教育課程【38単位】)**

区分	授業科目	単位		区分	授業科目	単位		配当年次	
		講・演	配当年次			講・演	実		
共通科目A	看護倫理	2	1・2	感染症看護分野	感染制御学特論	2		1・2	
	看護研究方法	2	1・2		感染看護学特論Ⅰ	2		1・2	
	看護政策論	2	1・2		感染看護学特論Ⅱ	2		1・2	
	看護理論	2	1・2		感染看護学特論Ⅲ	1		1・2	
	コンサルテーション論	2	1・2		感染看護学特論Ⅳ	1		1・2	
共通科目B	臨床薬理学概論	2	1・2		感染看護学特論Ⅴ	2		1・2	
	フィジカルアセスメント	2	1・2		感染看護学特論Ⅵ	2		1・2	
	病態生理学	2	1・2		感染症看護援助論Ⅰ	2		1・2	
共通科目A+B 14単位以上必修 共通科目A 8単位以上 共通科目B 6単位  共通科目は修士論文コースの基礎科目のそれぞれの該当授業科目を読み替える。					感染症看護援助論Ⅱ	2		1・2	
					感染看護学特別研究Ⅰ	1		1・2	
					感染看護学特別研究Ⅱ	3		1・2	
					実習科目	感染看護学実習Ⅰ		2	1
						感染看護学実習Ⅱ		4	1
感染看護学実習Ⅲ		4	1・2						
<b>すべて必修</b>									
<b>合計：44単位以上（共通科目14単位以上、専攻分野専門科目20単位、実習科目10単位を履修）。</b> <b>修士論文の審査に合格した者（修士論文はCNS申請に即したものが望ましい）。</b>									

(注1) 講は講義、演は演習、実は実習を示す。

(注2) 原則として「感染症看護分野高度実践看護師養成」の学生のための履修とする。

(注3) 感染看護学特別研究は、日本看護系大学協議会において認定された科目ではない。

**看護学専攻 専門職養成コース**  
**【感染症看護分野 国際実践】**

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位		配当年次
		講・演				講・演	実	
共通科目	人体構造学	2	1・2	感染症看護分野 専攻分野専門科目	感染制御学特論	2		1・2
	人体機能学	2	1・2		感染看護学特論Ⅰ	2		1・2
	臨床医学概論	2	1・2		感染看護学特論Ⅱ	2		1・2
	社会医学概論	1	1・2		感染看護学特論Ⅲ	1		1・2
	バイオ統計基礎ユニット※	1	1・2		感染看護学特論Ⅳ	1		1・2
	バイオ統計応用ユニット※	2	1・2		感染看護学特論Ⅴ	2		1・2
	看護理論	2	1・2		感染看護学特論Ⅵ	2		1・2
	看護倫理	2	1・2		感染症看護援助論Ⅰ	2		1・2
	コンサルテーション論	2	1・2		感染症看護援助論Ⅱ	2		1・2
	看護研究方法	2	1・2		感染看護学特別研究Ⅰ	1		1・2
	看護政策論	2	1・2		感染看護学特別研究Ⅱ	3		1・2
	大学院セミナーシリーズ※	1	1・2		実習科目	国際感染看護学実習Ⅰ		2
					国際感染看護学実習Ⅱ		4	1・2
<p>共通科目は修士論文コースの基礎科目のそれぞれの該当授業科目を読み替える。</p> <p><b>※を含め 10 単位選択必修</b></p>				<p align="center"><b>すべて必修</b></p>				
<p>合計：36 単位以上（共通科目 10 単位、専攻分野専門科目 20 単位、実習科目 6 単位）を必修。          修士論文の審査に合格した者</p>								

(注1) 講は講義、演は演習、実は実習を示す。

(注2) 日本看護系大学協議会が実施する感染看護専門看護師認定審査の受験資格は満たさない。

**看護学専攻 専門職養成コース**  
**【老年看護分野 高度実践看護師養成】**  
**(※老年看護専門看護師教育課程【38単位】)**

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位		配当年次	
		講・演				講・演	実		
共通科目A	看護倫理	2	1・2	老年看護分野	専攻分野共通科目	老年看護学特論Ⅰ	2		1
	看護研究方法	2	1・2			老年看護学特論Ⅱ	2		1
	看護政策論	2	1・2			老年看護学特論Ⅲ	2		1
	看護理論	2	1・2			老年看護学特論Ⅳ	2		1
	コンサルテーション論	2	1・2			高齢者病態治療学	2		1
共通科目B	臨床薬理学概論	2	1・2		専攻分野専門科目	老年看護学演習Ⅰ	2		1
	フィジカルアセスメント	2	1・2			老年看護学演習Ⅱ	2		1
	病態生理学	2	1・2			老年看護学特別研究	4		1・2
共通科目A+B 14単位以上必修 共通科目A 8単位以上 共通科目B 6単位					実習科目	老年看護学実習Ⅰ		2	1
共通科目は修士論文コースの基礎科目のそれぞれの該当授業科目を読み替える。						老年看護学実習Ⅱ		3	2
				老年看護学実習Ⅲ			5	2	
				<b>すべて必修</b>					
合計：42単位以上（共通科目14単位以上、専攻分野共通科目10単位、同専門科目8単位、実習科目10単位を履修）。修士論文の審査に合格した者（修士論文は高度実践看護師申請に即したものが望ましい）。									

(注1) 講は講義、演は演習、実は実習を示す。

(注2) 原則として、「老年看護分野 高度実践看護師養成」の学生のみの履修とする。

(注3) 老年看護学特別研究は、日本看護系大学協議会において認定された科目ではない。

看護学専攻 専門職養成コース  
**【小児看護分野 高度実践看護師養成】**  
 (日本看護系大学協議会認定教育課程【38単位】)

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位	配当年次
		講・演				講・実	
共通科目A	看護倫理	2	1・2	小児看護分野	小児看護学特論Ⅰ	1	1・2
	看護研究方法	2	1・2		小児看護学特論Ⅱ	1	1・2
	看護政策論	2	1・2		小児看護学特論Ⅲ	2	1・2
	看護理論	2	1・2		小児看護対象論	2	1・2
	コンサルテーション論	2	1・2		小児看護援助論Ⅰ	2	1・2
共通科目B	臨床薬理学概論	2	1・2		小児看護援助論Ⅱ	2	1・2
	フィジカルアセスメント	2	1・2		小児看護援助論Ⅲ	2	1・2
	病態生理学	2	1・2		小児診断治療学	2	1・2
<b>共通科目A+B 14単位以上必修</b> <b>共通科目A 8単位以上</b> <b>共通科目B 6単位以上</b>  共通科目は修士論文コースの基礎科目のそれぞれの該当授業科目を読み替える。					小児看護学特別研究	4	1・2
					実習科目	小児看護学実習Ⅰ	2
				小児看護学実習Ⅱ		2	1・2
				小児看護学実習Ⅲ		2	1・2
				小児看護学実習Ⅳ		2	1・2
				小児看護学実習Ⅴ		2	1・2
<b>すべて必修</b>							
合計：42単位以上（共通科目14単位以上、専攻分野共通科目18単位、実習科目10単位を履修） 修士論文の審査に合格した者（修士論文は高度実践看護師申請に即したものが望ましい）							

(注1) 講は講義、演は演習、実実習を示す。

(注2) 原則として、「小児看護分野 高度実践看護師養成」の学生のみの履修とする。

(注3) 小児看護学特別研究は、日本看護系大学協議会において認定された科目ではない。

看護学専攻 専門職養成コース  
【助産学分野 助産師資格】

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位		配当年次		
		講・演				講・演	実			
基礎科目	人体構造学	2	1・2	助産学分野基礎科目	基礎助産学	助産学概論	2		1	
	人体機能学	2	1・2			ウィメンズヘルス特論	2		1	
	臨床医学概論	2	1・2			助産と生殖科学	2		1	
	社会医学概論	1	1・2		助産診断・技術学	助産学特論－妊娠期	2		1	
	物理学特論	1	1・2			助産学特論－分娩期	2		1	
	生物学特論	1	1・2			助産学特論－産褥期	2		1	
	化学特論	1	1・2			助産学特論－乳幼児期	2		1	
	医学教育学	4	1・2			助産学特論－ハイリスク	2		1	
	生命倫理 I	1	1・2		地母助産	地域母子保健特論	2		1	
	臨床遺伝学	1	1・2		保健管理	助産マネジメント論	2		1	
	移植医学	1	1・2		基礎助産学 基礎実習	助産学基礎実習 I		8	1～2	
	リハビリテーション医学	1	1・2			助産学基礎実習 II		2	1～2	
	医学工学概論	1	1・2			地域助産学実習		1	1～2	
	実験動物学	1	1・2		<b>助産学分野基礎科目 31 単位必修</b>					
	看護倫理	2	1・2		助産学分野専門科目	ヒューマンセクシュアリティ論	1		1	
	看護研究方法	2	1・2			ハイリスク周産期論	2		1	
	看護政策論	2	1・2			母子の心理・社会学	2		1	
	看護理論	2	1・2			高次助産診断・技術演習 I	2		1	
	コンサルテーション論	2	1・2			高次助産診断・技術演習 II	1		1	
	先端的・分野特異的研究手法体験ユニット	2	1・2			ウィメンズヘルス演習	1		1	
	バイオ統計基礎ユニット	1	1・2			助産技術演習	1		1	
	バイオ統計応用ユニット	2	1・2			周産期医療政策・環境論	2		2	
	知的財産権論	2	1・2			国際助産論	1		2	
	臨床研究入門	2	1・2			ハイリスクシミュレーション演習	1		2	
	臨床薬理学概論	2	1・2		<b>助産学分野専門科目 14 単位必修</b>					
	フィジカルアセスメント	2	1・2		特別研究	助産学研究演習	4		1～2	
	病態生理学	2	1・2			助産学特別研究	4		1～2	
	看護管理論	2	1・2		<b>特別研究 8 単位必修</b>					
	大学院セミナーシリーズ	1	1・2		<b>基礎科目から 8 単位以上選択必修（※看護研究方法・バイオ統計基礎ユニットは選択必修）</b>					
	<b>合計：61 単位以上（修士論文の審査に合格した者）</b>									

看護学専攻 専門職養成コース  
【助産学分野 上級実践】

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位		配当年次	
		講・演				講・演	実		
基礎科目	人体構造学	2	1・2	助産学分野専門科目	ヒューマンセクシュアリティ論	1		1	
	人体機能学	2	1・2		ハイリスク周産期論	2		1	
	臨床医学概論	2	1・2		母子の心理・社会学	2		1	
	社会医学概論	1	1・2		高次助産診断・技術演習Ⅰ	2		1	
	物理学特論	1	1・2		高次助産診断・技術演習Ⅱ	1		1	
	生物学特論	1	1・2		ウイメンズヘルス演習	1		1	
	化学特論	1	1・2		周産期医療政策・環境論	2		2	
	医学教育学	4	1・2		国際助産論	1		2	
	生命倫理Ⅰ	1	1・2		※ハイリスク周産期実習Ⅰ		2	1～2	
	臨床遺伝学	1	1・2		ハイリスク周産期実習Ⅱ		2	1～2	
	移植医学	1	1・2		※上級実践助産学実習		2	1～2	
	リハビリテーション医学	1	1・2		助産学分野専門科目 16 単位（※ハイリスク周産期実習Ⅰもしくは上級実践助産学実習から 2 単位選択必修）				
	医学工学概論	1	1・2						
	実験動物学	1	1・2						
	看護倫理	2	1・2						
	看護研究方法	2	1・2	特別研究	助産学研究演習	4		1～2	
	看護政策論	2	1・2		助産学特別研究	4		1～2	
	看護理論	2	1・2	特別研究（8 単位必修）					
	コンサルテーション論	2	1・2						
	先端的・分野特異的研究手法体験ユニット	2	1・2						
	バイオ統計基礎ユニット	1	1・2						
	知的財産権論	2	1・2						
	臨床研究入門	2	1・2						
	臨床薬理学概論	2	1・2						
	フィジカルアセスメント	2	1・2						
	病態生理学	2	1・2						
	医療経営	2	1・2						
	医療経済学	2	1・2						
看護管理論	2	1・2							
大学院セミナーシリーズ	1	1・2							
基礎科目から 8 単位以上選択必修（※看護研究方法・バイオ統計基礎ユニットは選択必修）									
合計：32 単位以上（修士論文の審査に合格した者）									